

### 33 高気圧酸素治療センターの現状と課題

上野剛久<sup>1)</sup> 廣畑妙子<sup>1)</sup> 相馬 彰<sup>2)</sup>

松村憲一<sup>3)</sup> 水野光邦<sup>4)</sup>

- |    |     |          |       |
|----|-----|----------|-------|
| 1) | 誠光会 | 草津総合病院臨床 | 工学科   |
| 2) | 誠光会 | 草津総合病院臨床 | 集中治療部 |
| 3) | 誠光会 | 草津総合病院臨床 | 脳神経外科 |
| 4) | 誠光会 | 草津総合病院臨床 | 外科    |

#### 【はじめに】

当施設では2006年4月新築移転(719床)し、高気圧酸素治療センターは、準備期間を経て2006年12月より治療を開始した。

今回、疾患別経過推移の現状等を調査し、問題点や課題について検討を行ったので報告する。

#### 【対象・方法】

- ① 対象:2007年1月~2008年6月の1年6か月間。
- ② 方法:第1種高気圧酸素治療装置(SECHRIST Model 2800J/2800JR)で、酸素加圧下2.0~2.8ATAで施行した症例。
- ③ 調査方法:治療数(救急・非救急)、依頼診療科、疾患別(主病名)依頼の経過推移等の現状調査を行い課題について検討した。

#### 【結果】

- ① 治療患者数は132名で、治療回数は1183回であった。
- ② 治療回数の内訳は救急的適応が468回(39.5%)で非救急適応が715回(60.5%)であった。
- ③ 適応疾患別の依頼件数では、脳梗塞・脳出血・一酸化炭素中毒の順で多く、イレウスや突発性難聴の症例数が少なかった。

#### 【考察】

疾患別では、脳・神経科のHBOに対する認知度があるものと考えられ、その他の診療科には今まで以上に啓蒙活動が必要であると思われた。

課題として純酸素加圧から空気加圧への変更が望まれており、災害対策の面から第2種装置の設置検討が必要と考えられた。

### 34 北大病院の高気圧酸素治療、過去10年間の変遷

伊藤亮子 石川勝清 敦賀健吉 石川太郎

橋本聡一 森本裕二

北海道大学病院麻酔科

北海道大学病院では平成10年8月より高圧酸素治療第2種装置が導入され、札幌圏内唯一の当装置設置機関として治療に当たってきた。そこで、この10年間の当院における高気圧酸素治療症例の変遷について検討した。平成10年度の治療延べ回数は886回、うち救急適応回数は127回であったが、平成19年度の治療延べ回数は1071回と増加し、そのうち救急適応回数は203回と19%を占めるまでに増加した。年間症例数は101人であり約20人増加した。疾患別では突発性難聴が最も多く約20%を占めたほか、放射線性膀胱炎をはじめとする放射線治療に伴う臓器障害が2番目に多く10%から15%を占めていた。平成17年度からはスポーツ障害の治療目的の利用を開始し、また肝移植後の肝不全への適応を加えて、より活発に稼働させている。一酸化炭素中毒の適応に関しては2002年のWeaverらの報告に基づき、一酸化炭素への暴露終了から36時間以内に3回の高圧酸素治療を行ってきた。最近の話題を交えながら報告する。